

はじめに

ポストコロナ社会に求められる CSR (College Social Responsibility) を

総合学務センター長 内山 秀樹

2020 年度は“新型コロナ”で始まり、新型コロナで終えた一年でした。地球上の全人類が目に見えぬウィルスの脅威に晒され、日常生活の多くを制限せざるを得ない状況に陥りました。このような地球規模での同時多発的脅威は、人類史上氷河期突入以来の経験ではないかと思います。

本学におきましても、昨年度の卒業式と今年度に入ってから入学式の中止、前期授業はオンラインによる1ヶ月以上遅れてのスタート、6月オープンキャンパスをはじめとする一連の学生募集活動もオンライン対応を余儀なくされました。

本学の CSR に関しても大きな影響をもたらし、対面での公開講座は全て中止、教職員や学生の社会的活動も大幅に自粛せざるを得ない状況でした。

このような中でも、自治体等との連携事業については、予定されていたものは概ね実施でき、保育者養成施設としての社会的使命を有する教員免許状更新講習についてはオンラインに切り替えて実施し、福井市子ども家庭センターの運営についてもその使命を果たすことができました。これもひとえに多くの困難に取り組んでいただいた教職員の皆様の多大なご苦勞とご参加いただいた方々のご理解とご協力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

さて、昨年非常事態宣言が発令された頃は、年明け、遅くとも新年度には収束の兆しが見えるのでは？と楽観視していたわけですが、予想に反して今年3月末時点で第4波の兆候が顕著になり、全く余談を許さない状況にあります。

コロナ禍の影響は数年スパンで私達の生活や社会活動に影響を及ぼし、私たちのライフスタイルや社会経済活動をも大きく変えつつあります。その一つが DX (デジタルトランスフォーメーション) の進展です。その

代表的なものとしてのオンラインコミュニケーションツールはこの1年で爆発的に進展し、世界中に定着しつつあり、コミュニケーションや情報共有・発信の方法が劇的に変わろうとしています。

このことは、生涯学習や地域づくりにも大きな変化をもたらし、本学の CSR にも大きく影響します。特に昨年度中止せざるを得なかった公開講座を中心とする集合研修や講座についてはその形式や内容のみならず対象者も含めて根本的な見直しが必要と考えます。オンラインや動画の活用如何によっては、これまで考えもしなかった県外、国外の方の参加も可能になるわけで、時空を超えて繋がり、知的財産を共有することが可能になります。このような変化をいかすには、グローバルな視点と本学としての個性が必要になります。

ポストコロナ社会に期待される高等教育機関としての CSR を果たすことを本学の重要な使命の一つとして位置づけ、創意工夫、試行錯誤しながら取り組んで参りますので、皆様のご理解とご支援・ご協力のほどお願い申し上げます。

